

BE YOUR ファッションセミナー  
2025年度 実施報告

2026/4/1



APACHE

チラシ

**BE YOUR**  
**ファッションセミナー**

対象  
**中高生**  
ファッションに興味ない人、  
男性でも初体験でも、  
興味あれば歓迎！

現役ファッションデザイナーと一緒に  
未来のファッション、居場所になるファッション  
らしいファッション、考えてみない？

気になったらぜひ  
問い合わせね

参加希望、質問は  
公式LINEまで！

毎月 第一火曜、第二土曜 18:30 ごろ開催

参加費：無料 / 場所：基地ひるね

参加は公式 LINE から問い合わせ

**BE YOUR**  
**ファッションセミナー**

**ファッションを居場所にしてみない？**

- 自分らしさって何だろう？
- ファッションに興味がある！
- 雑誌を作りたい！
- 一人で考えてもわからない
- 将来のことも考えないと
- でもやったことないな
- 考え方を知りたいな
- どういう進路があるかな
- 体験できるならしたい

ファッションをテーマにしたワークショップです。  
前半では、ファッションの意味や「居場所を感じる」とはどういうことを学びます。後半では、自分にとって落ち着けるファッションを言葉やコラージュで表現し、AI を使って自分だけの小さなファッション雑誌を作ります。

第一回 [60分] 座学セッション 30分、ワークショップ 30分

第二回 ワークショップ 40分 発表 20分

第三回 ワークショップ 30分 感想発表会 30分

\* どの回からでも参加できます。未経験、ファッションに興味がない人、男性でも歓迎！

タグライン ↓ 何か気になるポイントがあれば見学もできます↓

#ファッション #自分らしさ #SDGs #編集 #雑誌づくり #ZINEづくり  
#心理学 #社会学 #ものづくり #英国式アート思考 #ワークショップ #AI

参加希望、質問  
公式LINEまで！



講師：山田 Apache 悠大  
やまだあばちゆうた

デザイナー。事業構想修士。  
ブランドの外部デザイナー、  
企業のユニフォームのデザインなどを行う。  
京都精華大学にて非常勤講師を7年務める。



## 概要

### 1. 行事の名称

**BE YOUR ファッションセミナー**

### 2. 主催者・後援者等名

<主催> 居場所としてのファッション研究会

<共催> 一般社団法人ひるね、株式会社情報の森

<後援> 宇都宮市教育委員会

### 3. 行事の趣旨

中高生に対して「居場所としてのファッション」の講義とワークショップを行うことで自らの感性の表現の仕方と、それを通じたコミュニケーションを学び情操教育を行う。

### 4. 開催場所・日程

基地ひるね（宇都宮市中戸祭1丁目5番5）

2025年12月2日、2026年1月24日、2月7日、3月28日（計4回）

## 各回の実施内容

### ■最終目標

---

参加者自身の「好き」を起点にコーディネートや価値観を言語化し、オリジナルのファッション雑誌を制作するワークを行う。最終的に発表を通じて他者と共有し、ファッションを「居場所」として捉える視点を深めることを目的としている。

### ■第一回目

---

ファッションを単なる衣服としてではなく、「自分と社会をつなぐ外面」や「自己表現の手段」として捉え直し、自分らしさを探求する講義を聞いて、自分なりの考えをまとめ発表する座学。ファッションの機能や社会的役割、SNS時代におけるバーチャルな自己表現の広がりについて学び、ファッションが自己理解やアイデンティティ形成に与える影響を考える。

### ■第二回目

---

前回のワークで見つけたテーマをもとに、写真や言葉、ストーリーを用いて企画を具体化し、自分だけのファッション雑誌の構想を制作する。さらにAIを活用しながらアイデアの整理や表現の幅を広げ、人間の感性と組み合わせてアウトプットを磨く。最終的には発表と講評を通じて他者の視点を取り入れ、自分らしい表現をより深めることを目指す。

### ■第三回目

---

これまでに構想したファッション雑誌の企画をもとに、デザインツール「Canva」を用いて実際の誌面制作へと落とし込む。表紙・本文・裏表紙の構成やレイアウトを設計し、タイポグラフィやビジュアル表現を工夫しながら、自分の世界観を具体的な形に仕上げていく。制作後は発表と講評を通じて振り返りを行い、表現の気づきや改善点を共有することで、自己表現としてのファッション理解をさらに深めることを目的としている。

## 最終成果物について

\* 著作物保護のためボカシ有



第一回の「自分の好きなファッション(居場所としてのファッション)」を見つけるプロセス、第二回の「自分の好きなファッション」を表現する企画書作り、第三回の企画書を元にした誌面デザインを通じて成果物を作成した。

## 開催の様子



## 開催の様子



## 掲出



基地ひるね



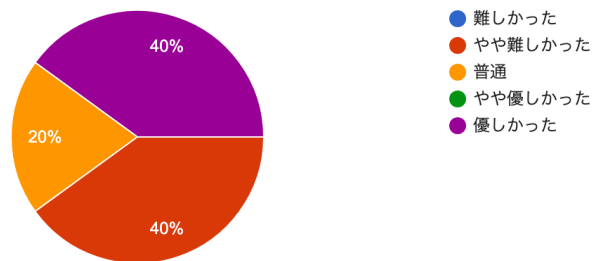
星の杜中学校、高等学校



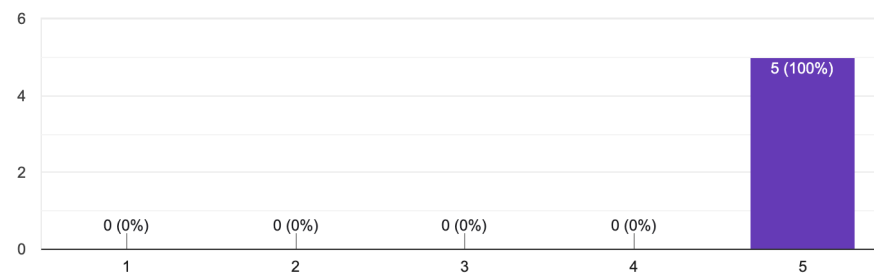
## 参加者アンケート

### ■ 第一回 (座学回) 参加者

#### 内容の難易度について



#### 満足度について (つまらない=1、楽しかった=5で評点)



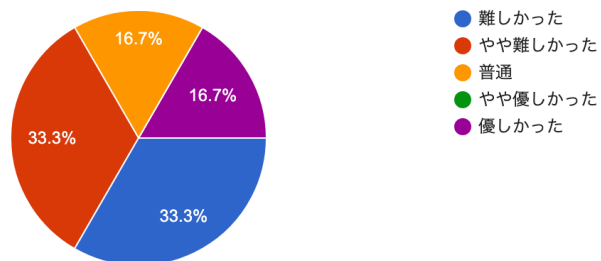
#### 記述欄からの要約

アンケートからは、本ワークショップが「新しい視点の獲得」と「自己理解の深化」の両面で高く評価されている傾向が見られる。例えば、「ファッションと呼ばれる範囲について今まで考えたことがなく面白かった」「社会とファッションの繋がり」といった回答から、従来の衣服中心の認識を超えた広い概念への関心が示されている。また「ファッションに対して何を重要視しているのかが言語化されてスッキリした」という声に代表されるように、自分の価値観を整理できた点も特徴的である。さらに「受講者が聞くだけでなく考えさせるのがいい」「発表があるのが新鮮」といった意見から、参加型の構成が好評であり、「他の人がどう思っているのかを知るのが興味深い」と他者理解にもつながっている。加えて「メタバースについて興味が湧いた」「居服という考え方」といった新概念への関心も見られ、学びの広がりが確認できる。

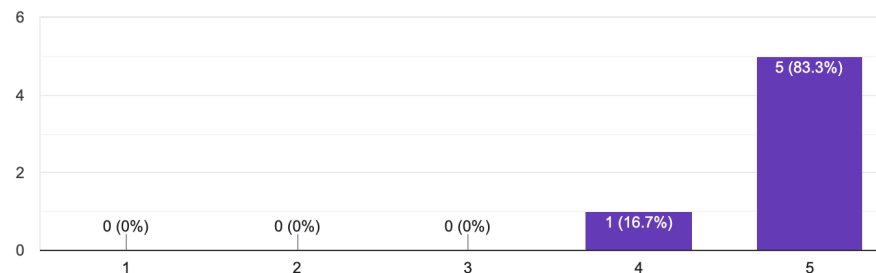
## 参加者アンケート

### ■ 第二回、第三回 (ワークショップ会) 参加者

#### 内容の難易度について



#### 満足度について (つまらない=1、楽しかった=5で評点)

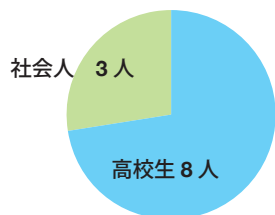


#### 記述欄からの要約

本アンケートからは、最終制作を通じて「思考の深化」と「実践的な表現体験」が結びついた学びが高く評価されている傾向が見られる。「自分の作りたい雑誌について考えてAIで深掘りするのが興味深かった」「ChatGPTの使い方で視野が広がった」といった声から、AIを活用した発想支援が新しい学びとして受け入れられている。また「Canvaが使いやすく、作りたいものを形にできた」「頭で考える部分と手を動かす部分の両方が必要で充実していた」といった意見から、思考と制作を往復する体験が満足度につながっていることが分かる。さらに「ファッションは背中を押してくれる存在だと思っていたが、居服という考えに納得した」「ファッションとは居場所という考えに気づいた」といった回答に見られるように、ファッションの意味を再定義する気づきも生まれている。「普段は楽しめればよいと思っていたが根本から考えられた」という声や「また受けたい」といった意欲からも、学びの深さと継続的関心の高さが確認できる。

## 実施者コメント

### 参加者属性について



対象である高校生にとって本セミナーは“難しい”と感じる内容であったが、満足度は“楽しい”という回答が最も多かった。参加者は宇都宮市内のデザイン学科に通う高校生が主だったが「ファッションに興味はあるがファッションについて考える機会がない」とのことであり、感想からも視点を広がる体験につながったと思われる。

### セミナーのテーマと参加者理解度について

前項の通り、「手を動かす機会はあるが、考え、伝える授業や機会がない」との声が多くあった。本セミナーで大切にしていることは、自分なりの考えを見つけること、それを言語化し人に伝えるというプロセス（プレゼンテーション&クリティーク）である。正解はないが、自分自身で言葉を発見し、それを発表し、受け入れられるというプロセスは新鮮に受け入れられた。

AIの導入について、使用前にAI利用のポリシーを共有した。AIはパートナーであり道具であるという基本原則のもと、「自分なりの考え」を具現化するために使用するには自分の考えていることを指示として言語化してゆくこと、考えを深めるためには繰り返し壁打ちをしてゆくことが大切という原則のもと実習を行っている。プロンプトエンジニアリングについては“DAIR.AI”が作成している、プロンプトエンジニアリングに関するドキュメント”を参照に基本原則について記したHow to Useのレジюмеを配布した。

### その他

セミナー後、コミュニケーションの時間を取ったところ進路の相談や質問が多かった。座学を通じて「ファッションについて考える」という研究分野や進路があるということに興味を持った参加者が1名いた。また、海外留学を検討している学生や、ファッションを職にすることについての悩みがあった。本セミナーを通じて、ファッションを経て考え方や自分への理解が広がることなど、ファッションを学んだことは自分を形成する一つの要素となり、どの選択を選んでも自分なりの考えで選んだことを大切であると伝え、選択の勇気を持つために自分なりの考えを見つけることを伝えた。

## 今後の展望

2025年度の実施成果を元に、2026年度の実施形態については検討のうえ実現してゆく。

開催報告を関係各所、教育委員会、各学校、フリースクール、学童保育実施者などに共有し、自主開催以外の開催可能性(例えば中学校や高等学校での外部授業としての実施)のアプローチを続ける。

今回の開催ではファッションを学んでいる学生が中心であったが、そうでない一般の生徒に対しても実施し興味を持つことができる内容かを検証したい。

また、今後の展望として英国アートスクール卒業生であり、同校への予備校講師を勤めた専門家と、新たなカリキュラムを開発済みである。主にファッション初心者に向けた、ファッションを通じたワークショップの内容になっている。ファッションを通じて、自己理解を深めながら自己肯定感を見つけ、それらを大切に思うことができるようになることが目的である。

これらは、第二次性徴期を迎え、進学に伴う環境変化で自分のあり方が変化するようになることが原因となるムードディストラクション(情緒不安定)や、大学生の就職に伴う個性を抑え画一的なリクルースタイルに自己を規格化することや不採用のお知らせを受けることによる自己効力感の低下などに有用と考える。

実践を通じて、本セミナーが必要とされる人に届けられるよう邁進する所存である。